

グローバル共生プログラム博士後期課程入学試験案内

この案内書は、東京大学大学院総合文化研究科グローバル共生プログラムの博士後期課程学生募集要項を補足するものである。

1. 出願資格について

出願資格第12号中、「平成27年3月31日において24歳に達しているもの」には、平成3年4月1日生まれの者を含む。

2. 受入予定人員について

グローバル共生プログラムでは、各専攻別に受入予定人員を定めず、プログラム全体として学生を募集する。

ただし、志願者は、各自の研究テーマに基づき、志望専攻(分野)を決めて出願しなければならない。入学後は、当該専攻(分野)に所属しつつ、本プログラムのカリキュラムを履修する。

3. 出願書類等作成について

- (1) 入学願書は、修士課程・博士後期課程について、共通の様式となっている。出願しようとする課程を○で囲むこと。
- (2) 入学願書は、正・副それぞれ1枚ある。双方の記入内容に相違がないよう注意すること。また、必ず2枚とも提出すること。
- (3) 入学願書は、「受付番号」及び「受験番号」欄以外は、該当する箇所をすべて記入すること。また、裏面の記入も忘れないこと。
- (4) 入学願書に貼付する写真3枚は、すべて同一のものを使用し、はがれないようにしっかりと糊付けすること。
- (5) 入学願書中、志望専攻(分野)欄は、前述の「2. 受入予定人員」により必ず記入すること。
なお、超域文化科学専攻及び国際社会科学専攻を志望する者は、分野も記入すること(各専攻の分野は以下のとおり)。
超域文化科学専攻(表象文化論分野・文化人類学分野・比較文学比較文化分野)
国際社会科学専攻(国際関係論分野・相関社会科学分野)
- (6) 入学願書中、「現在の身分」欄は、「出身大学等」または「出身大学院等」欄に記載の大学または大学院等に在学中の者以外は、必ず記入すること。無業の者も、その旨記入すること。
- (7) 入学願書裏面の「履歴事項」欄は、高等学校卒業時から(外国人は小学校入学時から)記入し、職歴等も含めて、空白期間のないようにすること。
- (8) 成績証明書は、大学在学時以降のすべての成績証明書を提出すること。「履歴事項」欄に記載のある複数の大学(院)及び外国の大学(院)(単位互換制度等で留学したものを含む)についても、卒業(修了)・中途退学の如何によらず、成績証明書の発行可能なものについてはすべて提出すること。
- (9) 提出書類(各種証明書、論文等)に記載されている氏名と現在の氏名が異なる場合には、改姓名したことが確認できる証明書を添付すること。
- (10) 出願書類提出用封筒(角型2号)の所定欄に必要事項を記入のうえ、出願書類等を封筒裏面に記載してある【出願書類等提出明細】の順に整理して封入すること。

(11)受験票送付用封筒(長型3号)及び口述試験通知用封筒(長型3号)にそれぞれの受信場所の住所を記入し、362円分の切手を貼ること。

4. 論文、論文要旨等の提出書類について

- (1)出願者は、以下の【提出書類等一覧】により、募集要項6.(2)で指定されたものを提出すること。
- (2)提出書類中、論文及び論文要旨には、所定の「論文添付票」及び「論文要旨添付票」を貼付し、その他の提出書類(研究計画書等)については、表紙に提出書類等の表題、志望専攻(分野)名及び氏名を記入すること。論文はしっかり綴じること。
- (3)郵送にあたっては、他の出願書類とは別便で、各自で用意した封筒等に所定の「論文等提出用ラベル」を貼付し、必ず郵便局で「書留速達郵便」と指定して送ること。

【提出書類等一覧】

グローバル共生プログラム

提出書類	備 考
論文と論文要旨	『論文』 ・修士の学位論文又はこれに代わるもののコピー3部。ただし、論文が英語、中国語、韓国朝鮮語以外の外国語の場合、日本語による全訳のコピーも3部提出すること。 『論文要旨』 (1)日本語でA4判用紙4,000字以内のもののコピーを3部提出すること。 (2)論文が日本語の場合、さらに(1)の論文要旨と同内容の要旨をA4判用紙で英語でも作成し、コピーを3部提出すること。
研究業績一覧	・参考資料として上記論文以外の研究業績の添付を希望する者は、その業績のコピー各3部を提出すること。その際、A4判用紙で、各論文を2、3行程度で説明した研究業績一覧のコピーを3部付すこと。
研究計画書	・入学後の研究計画をA4判用紙に日本語で2,000字程度にまとめたもののコピーを3部提出すること。

注)口述試験の際に、受験者は提出論文のコピーを持参すること。その論文の内容と入学後の研究計画を、最初の5分間で要約して述べる事が求められる。